ツシマヤマネコにおけるデスロレリンインプラント後の行動変化の一例

○宮本　知佳
（横浜市立よこはま動物園）

ツシマヤマネコ（*Prionailurus bengalensis euptilurus*）は長崎県対馬のみに生息する絶滅危惧種であり、当園は人工繁殖推進施設として人工繁殖技術の確立に取り組んでいる。本種では当園において人工授精による繁殖成功例が得られている一方、同手法の反復適用には課題が残されている。

そこで 2024 年からは、イエネコにおいて人工授精での繁殖成功例が報告されている GnRH アゴニスト製剤デスロレリンを用いたプロトコルを参考にした手法が実施された。

本報告では、膣スメア実施回数の削減を念頭に、2025 年にデスロレリンを埋設した雌 1 個体において、発情関連行動および糞中エストロン濃度の推移を記録した。

デスロレリン埋設後、尿スプレーや陰部なめ行動の一時的増加は認められたが、ローリングや擦り付けなどの典型的な発情行動は確認されず、糞中エストロン濃度にも明確な変動は認められなかった。また、行動変化と糞中エストロン濃度の推移が連動している様子は確認されなかった。

本観察は 1 個体のみを対象とした限定的な記録であり、発情把握や人工授精日程の適期判断に資する指標は得られなかったが、本手法を継続しない判断に至る過程で得られた行動およびホルモン動態の記録として整理・報告する。